

よえもん

《第91号》
2024年11月発行

なかえとうじゆ せんせい
中江藤樹先生の小さいころの名前は、
よえもんといいました。
しんぶんめい
この新聞名は、その名前にちなんで
なづ
「よえもん」と名付けました。



とうじゆせんせい
藤樹先生が37さいのとき、「ようめいぜんしょ」という本を手に入
れました。この本は、藤樹先生が生まれる100年ほど前に
ちゆうごく かつやく
中国で活躍した「王陽明」という学者が書いたもので、藤樹
先生は、この本との出会いを人生最大の喜びと感じました。

この王陽明の考え方を陽明学とよび、藤樹先生は日本で初
めての陽明学者だといわれています。

藤樹先生の言葉

良知とはなにを
いわたまのこけむら
まげんのよまに
知くものはなし

書
瀧田瑞穂さん

第2回 『致良知』 『五事を正す』



おうようめい
王陽明は、人は誰でも生まれながら良知
という美しい心を持ち、その心に従って行
動することを「致良知（良知を致す）」と
いい、みぶんや 学問に 関係なく 誰でも 聖人
になれると 考えました。藤樹先生は、「致良
知」を「良知に致る」と読みかえ、美しい
良知に致るための工夫として「五事を正す」
ことが大切だと 伝えました。

五事を正す

- ぼう (顔つき) …和やかな顔で人と接しましょう。
- げん (言葉使い) …思いやりのある言葉使いをしましょう。
- し (まなざし) …澄んだ目で物事を見つめましょう。
- ちゆう (よく聞く) …相手の本当の気持ちを聞きましょう。
- し (思いやり) …思いやりのある気持ちを持ちましょう。

致良知

人は誰でも美しい心（良知）を持っています。
その心をいつも鏡のように磨き続けることが大切です。

これは、「致良知」について教
えられていた藤樹先生の、歌集に
ある歌です。

「良知に従っていけば、岩のあい
だに、びっしりと生えている苔の
敷物に横たわるような心地よさで
いられる」という意味です。

このような気持ちになれるには
どうしたらいいでしょうか。

わたしたちのふだんの生活のな
かで、「五事を正す」ことに努め
ることで。

日々、心の底から、よい行いを
続けていくことが大切なのですね。



王陽明像（陽明園）
記念館の横にあります



職員だより



らいねん しんしせつ かいかん に向けて、準備
を進めています。引っ越しした資料
を収納するため、収蔵庫になったマ
キノ資料館のフロアいっぱいになが
並びました。大切な資料は、迷子に
ならないようにきちんと整理して、
また新施設で展示される出番が来るのを待ってまいります。



近江聖人中江藤樹記念館

(高島市教育委員会事務局 文化財課 TEL (0740)-25-8559)